

平成 27 年 11 月 26 日  
美 術 博 物 館

## 「馬越長火塚古墳群」の国史跡指定及び「豊橋市民俗資料収蔵室」の国文化財登録について

国の文化審議会（会長 宮田亮平）は、別添のとおり、史跡馬越長火塚古墳群の指定、並びに文化財建造物豊橋市民俗資料収蔵室の登録について、11 月 20 日（金）に文部科学大臣に答申しました。

史跡馬越長火塚古墳群の国指定により、当市の史跡指定は「嵩山蛇穴」以来 58 年ぶりで、3 件目となりました。

また、登録有形文化財につきましては、今回の文化財登録が 8 件目で、計 17 棟となります。

### 参考

#### 豊橋市内の国指定史跡

- ・ S 28. 11 瓜郷遺跡
  - ・ S 32. 7 嵩山蛇穴
- 2 件

#### 豊橋市内の国登録有形文化財

- ・ H10. 1 愛知大学旧本館（旧陸軍師団司令部庁舎）
  - ・ H10. 9 豊橋市公会堂
  - ・ H12. 12 羽田八幡宮社務所離れ（旧羽田野家住宅主屋）、同 蔵（旧羽田八幡宮文庫）、門（旧羽田八幡宮文庫正門）
  - ・ H20. 7 湊築島弁天社
  - ・ H22. 9 安久美神戸神明社本殿、同 幣殿及び拝殿、同 神楽殿、同 神庫、同 手水舎（工作物）
  - ・ H25. 6 小野田家住宅主屋、同長屋門
  - ・ H26. 10 西駒屋田村家住宅主屋、同土蔵
- 7 件 1 5 棟

## ①馬越長火塚古墳群の国史跡指定について

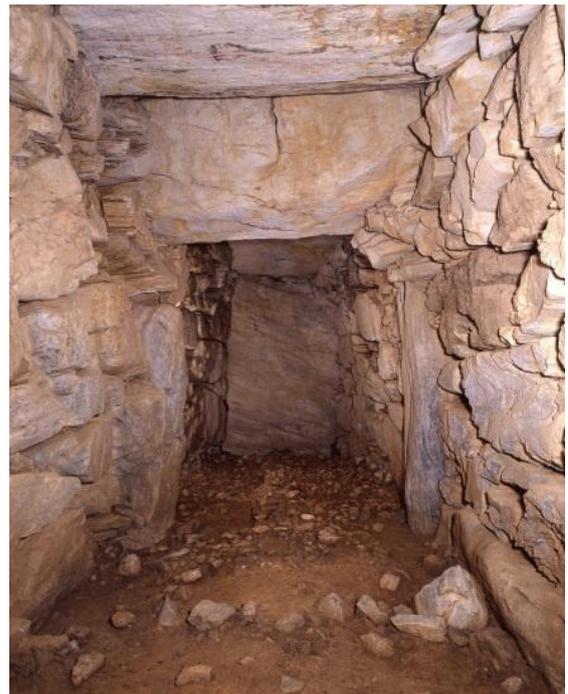
愛知県の南東部，豊川東側の段丘上に所在する馬越長火塚古墳，大塚南古墳，口明塚南古墳からなる古墳群である。馬越長火塚古墳は6世紀末葉の墳長70mの前方後円墳である。後円部には横穴式石室が開口し，全長は17.5m以上で，石室からは高度な技術で作られた鉄地金銅装の棘葉形杏葉などの馬具，ガラス製トンゴ玉などの装身具等が出土した。大塚南古墳は直径19m，口明塚南古墳は直径23mの円墳で，出土した馬具等から前者が7世紀初頭，後者が7世紀前葉に築かれたことが判明している。

馬越長火塚古墳群は6世紀末葉から7世紀前葉まで築造された古墳群で，文献で「徳国」とされる地域に所在する。馬越長火塚古墳は，同時期において東海屈指の規模を有する前方後円墳で，被葬者は出土した金銅装馬具から大和王権とのかかわりが考えられる。同様の馬具は大塚南古墳と口明塚南古墳でも出土しており，規模は著しく小型化するも大和政権とのかかわりは継続していたと考えられる。

本古墳群は東海地方の古墳時代後期から終末期にかけて，3世代にわたる首長墓系譜の変遷を追うことができる事例として重要である。



馬越長火塚古墳群（全景）



馬越長火塚古墳群（馬越長火塚古墳 横穴式石室）

## ②豊橋市民俗資料収蔵室の国文化財登録について

員数：2件      所在地：豊橋市多米町字滝ノ谷34-1-1      所有者：豊橋市

### 1 登録理由

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）：多米街道沿いに校地を構え、西棟とともに市内に残る唯一の木造校舎群である。当時の学校建築の標準とされた方杖が用いられ、内観の特徴となす建築物。（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）：本棟の西側に位置し、本棟と比較して、出窓など洋風の意匠が見られ、当時ではモダンな学校建築物。（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

### 2 概要

豊橋市民俗資料収蔵室本棟：木造平屋建、瓦葺、建築面積618㎡、建設年代 昭和19年

豊橋市民俗資料収蔵室西棟：木造平屋建、瓦葺、建築面積312㎡、建設年代 昭和29年

旧多米小学校は、明治34年(1901)に多米村立多米尋常小学校としてこの地に移転して以来、昭和16年(1941)からは豊橋市多米国民学校、昭和22年(1947)から豊橋市立多米小学校と改称し、現在の多米小学校が朝倉川の南に移転する昭和51年(1976)まで、用地の拡張や校舎の建替え・改修等を行いながら地域の小学校として存続し、昭和53年に豊橋市民俗資料収蔵室として用途変更された。「学校日誌」によると、旧多米小学校本校舎は、昭和19年(1944)10月に竣工し、旧多米小学校西校舎は、昭和29年(1954)に児童数の急増に対応するために新設された。

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）は、桁行62m、梁間10mの木造平屋建切妻造椼瓦葺の建物で、玄関、廊下、展示室A～E（旧教室）、展示室F（旧職員室）、管理室（旧応接室・校長室）、倉庫（旧土間）、土間からなる。地震や風圧による変形を防ぐため、柱と梁の取り付け部分に当時の学校建築に標準化された「方杖」を採用している。また、資材調達困難な戦時下において、転用材は使用されておらず、比較的良質な木材が用いられている。

豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）は、桁行34m、梁間9mの木造平屋建切妻造椼瓦葺の建物で、土間、収蔵室3室（旧理科室、旧教室2室）、廊下からなる。この建物は、出入口を思わせる縦長の採光用の固定窓の間に、縦長角格子の引違ガラス戸の出窓が収まる洋風意匠を特徴とする学校建築である。



豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）



豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）